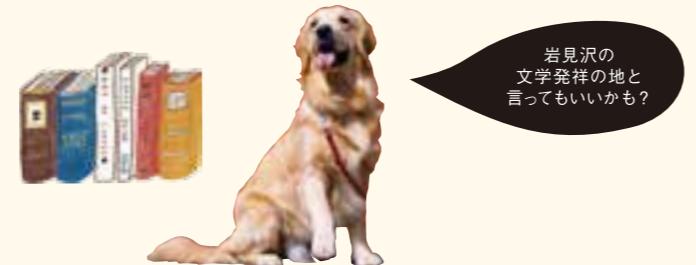


応接室のシャンデリアは昭和40年代のもの。建物が建ったばかりの頃は電気が通じておらず、天井からはランプが下がっていたようです。



辻村もと子さん36歳の時の作品。長沼町には『馬追原野』の文学碑が建てられています。



現実の世界では、その土地の取得後、直四郎さん達は益々開墾に励み、農場経営でも大成功を収めていきますが、この自宅周辺の原始林は、開拓当初の風景を後世に伝えようと1町5反の範囲で意図的に残したもの。そのお陰で現在、私達も当時の面影に触れることがでないと共に、近年、この原始林はアオサギが営巣する志文コロニーにもなっています。

その原始林の中、今なお残る洋風邸宅(※4)の中にただ一つだけ白い洋間があり、そこに「もと子」さん由来の品々が保管されています。一昨年、初めて本格的な調査が行われた結果、軽く1,000点を超える膨大な資料が整理され、その中から、もと子さんの未発表原稿が発見されました。「山脈」という題で、現在、直四郎さんのお孫さんのお嫁さんである(辻村淑恵)(※

あたたかい日差しがさしてお縁側。ずっと読書していくくなります

〈尚、本原始林や邸宅は私有地で、無断立ち入り
はできませんので、注意ください。〉



5) さん の 意 向 に より 、 辻 村 家 資 料 研究会 の 方々 の 手 に よつて 刊 行 準 備 作 業 が 行 われ て お い 、 間 も な く 発 表 さ れる 予 定 で す 。 ま た 、 そ の 刊 行 を 記念 し て 、 2月 25 日 (日) 14 時 か ら は 岩 見 汝 図 書 館 で 「 文 学 ト ー ク ふるさとの 作 家 辻 村 も と 子 を 読み解く 」 『 山 脈 』 刊 行 に よせ て 』 が 開 催 さ れ 、 2 月 13 日 ～ 3 月 25 日 の 期 間 は 、 郷 土 科 学 館 に て 「 企 画 展 辻 村 も と 子 の 生 涯 」 志 文 が 生 な だ 横 口 一 葉 作 家 』 が 開 催 さ れ ます 。 是 非 足 を 運 ん で 、 この 機 会 に 辻 村 家 と ま ち の 歴 史 に 思 い を 駆 せ て ほ しい と 思 い ま す 。

なさんは岩見沢市内から国道
234号を栗山方面に向かう
際、ノースファームストックさんを少し
超えたぐらいの右手に、鬱蒼と茂る原
始林があるのを知っていますか？ま
た、その林の中を良くみると、大正2
年（1904年前）頃に建てられた岩見沢
初の洋風建築を見る事もできます。

CivicPride探求部！



まちの誇りを
見つけに行こう!

※写真撮影協力／辻村邸

ひら の よし ふみ
文平野義文

岩見沢CivicPride探求部
主宰、そしてハチ吉くんの
パパさち



辻村邸の凄さを伝えたい

岩見沢市郊外に佇む辻村邸は大正2年頃に建造されました。当時の人々は原始林の中に建つこの邸宅を「森の西洋館」と呼びたえたといいます。北海道開墾当時のロマンを感じですね。



「入れる事ができる。」と考えていたものの、道内の広大な土地の大半は、既に貴族、財閥、役人、実力者等の所有になつていて、日々道府通いをして折衝するも埒があかない状況に苦心します。

この小説「馬追原野」は、第1回樋口一葉賞(※2)を受賞し、国内文学界で高い評価を得ます。その内容は北海道開拓当時の息遣いを今に伝えるものであり、父・直四郎さんからの聞き取りや長沼時代の開拓日記を基にした、父をモデルとした小説。厳しい開墾作業を行いながらも自らの土地を求め、やつと縁あつて志文(※3)の現在地を手に入れ、この地に入植したところで物語は終わります。

者として開墾に励むことに。その忙しい合間を縫い、情報を集めては上川方面などに赴き自分の土地を手に入れることを夢見て努力します。



今年は戌年、
このコーナーの主役は
バケビロコ! (?)

ひら の きち
平野ハチ吉
ゴールデンレトリバー
オス・2歳

コラボ企画

郷土科学館と市立図書館で



企画展

「辻村もと子の生涯

- 志文が生んだ樋口一葉賞作家 -

平成30年2月13日(火)～3月25日(日)

会場：岩見沢郷土科学館

※入館料 一般310円 小中学生100円

『馬追原野』で昭和19年に樋口一葉賞を受賞し、昭和の女流作家として活躍した辻村もと子。岩見沢志文に現存する貴重な文学資料を展示し、もと子が歩んだ足跡をたどります。

文学岩見沢の会が刊行する『山脈』の生原稿は初公開！

文学トーク

「ふるさとの作家 辻村もと子を読みとく」

平成30年2月25日(日) 午後2時より

会場：岩見沢市立図書館

※参加無料

辻村もと子の未発表原稿に描かれた岩見沢のすがたを、解説と朗読で再現。岩見沢郷土科学館企画展「辻村もと子の生涯」の見どころもお話しします！

○辻村もと子の作品に描かれたいわみざわ

- ・解説 辻村家資料研究会 代表 村田文江さんほか
- ・朗読 朗読ボランティア 高橋美智子さん

○辻村もと子『山脈』によせて

文学岩見沢の会 代表 堀 利幸さん

特別展示 「市民文芸誌 文学岩見沢のあゆみ」

平成30年2月3日(土)～2月27日(火)

会場：岩見沢市立図書館

市民の手で昭和44年から刊行を続ける総合文芸誌「文学岩見沢」の歴史をたどり、創刊号から最新96号まで一挙に展示！

お問い合わせ

岩見沢市立図書館

春日町2丁目18-1

TEL 0126-22-4236

岩見沢郷土科学館

志文町809-1 いわみざわ公園内

TEL 0126-23-7170



示るさとの作家

(※1) 辻村もと子
直四郎さんの長女で明治39年生まれ。今なお残る前述の邸宅で育ちます。直四郎さん達有志でつくった寺小屋から転化した志文尋常小学校に通い、卒業後は父の実家である祖父母の元から小田原高等女学校に通い、その際、親戚である日本山岳会の先駆け的な人物である辻村伊助と妻の口一から英語を教わる。しかし、祖母が亡くなり僅か1年で函館遺愛高等女学校へ転校。1年後に石川啄木の長女(京子)がいて、ともに文学を語り合う仲だったそう。

その後、数多くの作品を発表し、文

21年5月に持病が悪化し、岩見沢市立病院にて死去。
(※2) 樋口一葉賞
早逝しなければ、馬追原野の続編として志文開拓の物語が存在したかも知れないかと想像すると残念です。



(※3) 志文の地名
この地一帯をアイヌ語では「シユブンペツ(ウグイの来る川)」と呼ばれていたことから、直四郎さんが『志文』と名付けます。辻村もと子著『早春羹』文中、直四郎夫妻の会話にて「あなたは土に志をなすつたのに……と申しましたら、いや俺達の子供に、ひとりぐらいは文に志すものができるかもしないと笑いました」とあり、まさに「もと子」さんがそれを叶えたと言えます。

(※4) 洋風建築
直四郎さんは開墾も一段落した明治32年29歳の若さで当時は非常にレアケースだと思われる5年間の単身渡米

(※5) 辻村淑恵さん
同人誌「文学岩見沢」事務局長として、岩見沢の文学界を支えています。また、小説家として、小説「オート・リバース」で第1回小谷剛文学賞を受賞しています。
現在はシフォンケーキ等のお菓子で有名な「グラム・ヨシ」も経営。そのお菓子は保存の意図もあり、104年前の洋風邸宅の中でつくられています。

(※6) 日本文学報告会
事務局長は新潮編集長をつとめた岩見沢出身の中村武羅大。岩見沢市東山公園と神奈川県藤沢市に、プロレタリア文学を批判した有名な評論を記した「誰だ花園を荒らすものは」という一文が刻まれた石碑がある。



辻村直四郎さんのお孫さんのお嫁さんである辻村淑恵さん。手作り菓子の店「グラム・ヨシ」オーナー、「文学岩見沢」での事務と、多忙な日々をこなしていらっしゃいます。



「文学岩見沢」
定価¥1,000
(1月と7月の年2回発行)

昭和44年10月に創刊以来、長年地域に根ざした文芸誌を刊行。掲載ジャンルは幅広く、小説、評論、随筆、詩、短歌、俳句、川柳など多岐にわたる。発行元の「文学岩見沢の会」では、文学バスツアーや文学セミナーなどを開催しています。



を行ってアメリカ農法を学び、その後の農場経営でも大きな成功を収めています。

直四郎さんの実直な性格と思われますが、経済的にもとても豊かであった中、決して華美とは言えない質実剛健な邸宅を建てています。その中で、ただ一部屋だけ白壁の洋間があり、現在はもと子さん所縁のものが保管されていますが、本邸宅は現在104年が経過しているため、外壁等も劣化が目立ち心配が募ります。